



3月3日は桃の節句。五節句の2番目で上巳(じょうし)とも呼ばれる。ちなみに残りの節句は1月7日(人日)、5月5日(端午)、7月7日(七夕)、9月9日(重陽)である。桃の節句には多くの家庭でひな人形を飾り、女子の健康や幸運を祈る。金びょうぶ、真紅の敷物に鎮座するひなたちと小道具の品々は、ミニチュアといえども、大人が見ても愛らしい。今年も春が来たなど実感させられる。暦の上でもあと2週間もすると春分である。

2月29日、気象庁は高温に関する「異常天候

2016.3.6



「気象コンパス」主宰

古川武彦

桃の節句

早期警戒情報」を発表した。この情報は高温や低温などの異常を早期に予測して、警戒を促す臨時的な情報である。具体的には、情報発表日の5~14日後までの約10日間を対象に、7日間の平均気温が「かなり高く、あるいは低く」なる確率が30%以上と見込まれる場合に発表される。今回は高温が対象である。

一方、定期的な1カ月予報(3月)を見ると、特に関東甲信地方で「平年より高い確率」が70%以上と非常に高い。このことは日本の南海上で気圧が高く、北方で低くなる「南高北低」と呼ばれる気圧配置が現われやすいことを意味する。南風が吹きやすく気温も上がるが、雨も降る。特に山岳地方では雪崩や融雪が起き、洪水も発生しやすい。鬼怒川や那珂川などの増水にも注意が必要だ。

(元気象庁予報課長、理学博士、鹿嶋市在住)



「三寒四温」という言葉がある。「春に3日の晴れなし」と言われるほど、移り変わりが早く晴れ間も続かない。暖かい日が訪れたかと思うと、もう翌日には西から雲が広がり始め天気が崩れる。三寒四温は本来「冬に中国を舞台に、寒い日が3日続いた後に暖かい日が4日続く」という意味だが、春、数日おきに寒暖が繰り返す様子を表すように使われることが多い。

このような天気の周期的な変化の主役は高・低気圧。あたかも夫婦のように東西方向に連なって、西からやって来ては東に去ってゆく。そんな夫婦たちを東に運ぶ舞台が上空を流れる偏

2016.3.13



「気象コンパス」主宰

古川武彦

三寒四温

西風で、強風軸はジェット気流と呼ばれる。

冬季、日本の南まで下がっていたジェット気流は、春になるにつれて北上し、日本の上空辺りに位置する。低気圧から次の低気圧までの距離は波長と呼ばれ、一般に3千キロ程度だから、気圧が時速30キロで東進すると、約4日で次の低気圧が訪れる。低気圧が近づくと暖かく湿った南寄りの風が吹き、通り過ぎると冷たい北寄りの風が吹く。すぐ後ろの高気圧では乾いた北寄りの風が、次いで南寄りの風となる。

このような高・低気圧は地球規模で見れば、冷たい北の空気を南へ、南の暖かい空気を北へと運んで、一方的に極地方が冷え、赤道地方が暖まるのを防ぐ自然界の「熱の宅配便」である。

ふと庭先に目をやると、フキノトウが首をもたげていた。草木たちも春を待っていたのだ。

(元気象庁予報課長、理学博士、鹿嶋市在住)